

令和6年度 第3回 葵が丘小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年11月21日（木） 15時00分から16時30分まで
- 2 開催場所 葵が丘小学校 南校舎1階 多目的室
- 3 出席委員 小栗 則利、桐村 哲雄、見野 泰弘、若松 由希野、田村 都弥
- 4 欠席委員 伊藤 謙吾
- 5 学校支援コーディネーター 西原 真知
- 6 学 校 島田 一孝（校長）、佐藤 明世（教頭）、芹澤 純子（CS担当職員）
村上 朝香（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 8 傍 聴 者 穴戸 英里香（教員）
- 9 会議録の作成者 CSディレクター 村上 朝香

10 議長の選出

小栗会長より、前回の会議上で年間を通して見野委員が務めることが提案され、全員異議なくこれを承認した為、予定通り見野委員が務めることになった。

11 協議事項

- (1) 学校の抱える課題と改善策について
- (2) 支援策の具体化について

12 会議記録

司会の佐藤教頭から、委員総数6人のうち5人の出席があり、過半数を超えているため、会議が成立している旨の報告があった。

○ 熟議

(1) 学校の抱える課題と改善策について

議長の指示により、校長から学校の抱える課題と改善策についての説明があり、そのあと教務主任より別紙資料に基づき、学校中間評価及び全国学力・学習状況調査について説明があった。これらについて委員から以下の発言があった。

● 地域に関する項目について

- ・ 【地域の行事に進んで参加している】についての結果だが、アンケートの調査時期が1学期ということも影響しているように思う。地域行事は夏から秋にかけて行われる。また【地域のためになることをしている】については、自分自身も反省すべき項目である。私たち地域の代表が、子供たちのために何ができるのか、もっと話し合うべきだと感じた。（桐村副会長）
 - 2学期にもアンケートを実施する予定である。その際には、より良い結果をお知らせできたらと思う。（教務主任）
- ・ 子供の参加率が減少しているのも確か。地域の行事にあまり興味を示さなくなったと感じる。毎年恒例だった夏祭りのポスター作成も、週末集まらないという理由で、今年は各自で描いて提出することになった。週末、子供たちは何をして過ごしているのか。（小栗会長）
 - 週末は習い事をしているため、行事に参加が困難である。（若松委員）

- 保護者同士のつながりも希薄になっていることも影響しているのではないか。
(見野委員)
- ・ 地域の行事の案内は学校で配布は可能なのか。(見野委員)
 - 掲示板に掲載、チラシの配布等は可能である。(佐藤教頭)
- ・ 学校から地域の行事のアナウンスをすれば、子供たちは参加するものなのか。
(小栗会長)
 - 実際に実施している学校がある。行事の参加率が高い。地域と学校が連携して地域行事に積極的に参加するよう取組んでいる。(島田校長)
 - 回覧板のみの案内だと子供は見ない。やはり改善が必要に感じる。(桐村副会長)

● 学力について

- ・ 学力調査の結果だが、全国平均より僅かマイナス1ポイント。気にする必要があるのか。やはり平均を上回る学力を身に付けさせるべきなのか。(見野委員)
 - 基礎・基本が身に付かず卒業してしまう子もいる。そのような子供たちにも学ぶ楽しさを感じてもらいたい。(島田校長)
- ・ 基礎・基本の定着度について、先生の回答が【あまりできていない】と【わからない】が多いのはなぜか。(伊藤委員が欠席のため、代理で見野委員が発言)
 - 現在の学年で学んでいる基本的な内容は理解できていても、前の学年の積み重ねの部分の定着ができていないと感じるため。(穴戸先生)
 - フリーの教員や職種によっては、現状が正確に回答できない立場の教員がおり、無回答を選択しているため。(教務主任)

(2) 支援策の具体化について

上記の熟議をふまえ、支援策の具体化について委員より以下の発言があった。

● 学力について

- ・ 平均正答率だけでなく、個人の学力分布図のようなものはあるのか。それを活用することで、傾向と対策が新たに見えてくるのではないか。幼稚園では、小学校で始まる『学習』に向けて、園児がわくわく・ときどきするようなもの・興味が沸くものを園での生活に取り入れている。小学校（特に低学年）においても、授業でわくわく・ときどきする要素があるとよいと思う。(田村委員)
 - 個人データはある。保護者とも共有できるようになっている。(教務主任)
- ・ 各教科別の個人授業はあるのか。過去、葵が丘小では少人数制の授業があった。
(小栗会長)
 - 現在も保護者の了承のもと実施はしているが、希望者も多く十分な時間の確保は困難である。(教務主任)
 - 各教室に支援員が配置され、フォローをしている。(島田校長)
- ・ 子供たちに学習習慣・生活習慣を身に付けさせるために、地域と保護者はどのような取り組みが可能か。また子供たちの学力向上に向けて、地域と保護者と連携しながら何ができるか。(佐藤教頭)
 - 現在の小学生の学習内容は、親が教えられるものなのか。(小栗会長)
 - レベルが上がっているのは確か。(桐村副会長)

- 中学年までは親の確認印が必要だったため学習内容を把握できていたが、高学年になると確認印が不要になり、現在は把握できていない。我が子がどのレベルにいるのか、親も子の理解できていないのが現状である。(若松委員)
- ・ 学力向上のために読書は大切なのではないか。文章力を身に着けさせるためにも、積極的に読書の時間を増やしたほうが良いのではないか。(見野委員)

● 家庭学習について

- ・ 宿題は多いのか。どのような内容なのか。(小栗会長)
 - 低・中・高で学習要綱が分かれている。学年ごとに目安の時間を決めている。高学年になった時、自ら課題を決めて積極的に学習に臨めるようになることを目指している。学習内容は、興味のあるものや苦手なもの等、自ら判断して取り組む。(穴戸先生)
 - 家庭学習の在り方が変化してきている。与えられたものではなく、主体性を持ち自分で考えて取り組むことを目指している。(佐藤教頭)
 - 自主的に取り組むことができない子供との二極化が懸念されるのではないか。(小栗会長)
- ・ 学習のレベルで判断するのではなく、学習の習慣を身に着ける教育法はできないのか。(田村委員)
- ・ 高学年の自主学習のカリキュラムは、全国的なものなのか。それとも浜松市独自のものなのか。これが学力調査の結果に影響しているのではないか。全員が同じ内容で学習する方が、個人差が付きにくいのではないか。主体性を持って取り組む学習法も大切ではあるが、それができない子供にとっては、基礎の反復学習をするほうが良いのではないか。(西原コーディネーター)
 - 各学校で多少の違いはあるが、傾向としては現在のやり方に移行していく。急に手放しにするのではなく、低・中・高で段階を踏み、行う。『ここが苦手だから頑張っ取り組もう』という意識が付けば、限られた時間の中で、それに向けて集中して学習に臨める。今の自分にとって何が必要か、自分で考える、自分を知るということを大切にしたい。(佐藤教頭)
 - そのような内容の話を保護者向けにしてもらいたい。実際、今の家庭学習の内容に疑問を抱いている保護者もいる。家庭学習の在り方・学校のねらい・先生方の思いをまずは保護者に周知し、理解してもらうことが大事なのではないか。(西原コーディネーター)

協議の結果、全員異議なくこれに賛同した。

◇ その他報告事項等

- ・ 学校支援コーディネーターから、2学期の活動報告があった。

◇ その他連絡事項等

- ・ 司会から、次回会議は令和7年2月18日(火)15時から多目的教室で開催する旨の報告があった。